

ける応用などを紹介した。国連は、国別に人口統計を整備することとなっているが、今後、衛星や携帯電話からのビッグデータを用いて、さらに細かい地域区分の人口データにも関与するかどうかは、今後の検討課題、とのことであった。

今回は、テーマが「人口データ」関連であったこともあり、これまで国連統計委員会のみに参加していた各国関係者も多く参加しており、統計委員会と人口委員会の協働の重要性も認識された。また、CPD 開催方法について、去年から各国にアンケートが配られ意見徴取されていたが、これまでとほぼ同様の形で今後も開催していくことが決議された。

次回第50回の CPD のテーマは「人口年齢構造の変化と持続可能な開発 (Changing population age structures and sustainable development)」に決定し、議長国にカタールが、副議長国にオランダが選出された。その他の副議長国は来年4月の会議までに決定されることとなる。

会議中の配布資料、各国ステートメント、動画、プレスリリースなどは、すべて国連のウェブ (<http://www.un.org/en/development/desa/population/commission/sessions/2016/>) より閲覧・ダウンロードできる。  
(林 玲子 記)

## 世界人口開発議員会議 (GCPPD2016)

2016年4月26日(火)～27日(水)に、東京(ホテルニューオータニ)にて、世界人口開発議員会議(GCPPD2016)が開催された。この会議は、今年5月に開催されるG7伊勢志摩サミットに向けて行われたもので、世界65カ国から130名の国会議員が東京に集まり、(1)リプロダクティブ・ヘルス、UHC、女性のエンパワーメント、ジェンダーの平等、(2)若者への投資、健康、教育、雇用と人口問題、(3)経済的に活力のある高齢化、(4)人間の安全保障と感染症危機管理体制の確立、(5)SDGs 期におけるグローバル・パートナーシップに向けた国会議員と議員ネットワークの役割、という5つのテーマで、報告・議論が行われ、最終的に決議文が採択された。会議には、国会議員だけではなく市民団体が報告するセッションも設けられ、聴講も公開登録制で、多くの人が参加した。会議のプログラム、決議文などは、<http://gcppd2016.org/>から閲覧することができる。

会議は国際人口問題議員懇談会(JPFP)、人口と開発に関するアジア議員フォーラム(AFPPD)の主催、アフリカ、ヨーロッパ、アメリカ各地域の人口と開発に関する議員フォーラムの共催にて行われた。人口と開発分野は国会議員による活発な取り組みがある。特に日本は世界に先駆けて1974年にJPFPを設立し、AFPPDを通してアジアにおける人口と開発を支援するとともに、近年はアフリカや、今回の会議のような全世界的な人口と開発の議員ネットワークを強化している。

会議二日目の4月27日(水)午後には、スタディーツアーとして、社人研にて「日本における人口・社会保障」に関するセミナーを開催した。社人研より、日本の人口、社会保障、少子化・人口減少対策、国際人口移動に関するプレゼンテーションを行い、その後活発な質疑が行われた。また、翌日4月28日(木)午前には、ロシア語圏の国会議員(ロシア及び中央アジア4カ国)に対して同様のセミナーを行った。こちらはAFPPDの要請によるものである。人口開発関係の議員は、保健医療関係者も多く、日本の介護保険や医療費に関する質問もあったが、参加者の関心は、研究を政策にどのように反映させるのか、といったものから、人口高齢化で墓地の不足はないのか、といったものまで、幅広いものであった。  
(林 玲子 記)